

令和5・6年度の取組み

◆網走市の概要

○人 口：32,062人（男：15,653人、女：16,409人）

○出生数：146人（令和5年）

[身体障害者手帳：1,430人、療育手帳：410人、精神障害保健福祉手帳：297人]

[身体障害者手帳： 18人、療育手帳：115人、精神障害保健福祉手帳： 1人]

○放課後等デイサービスの実利用者数： 86人（2事業所）

◆Q-SACCS活用（現状把握と課題整理）

- ※次頁に「Q-SACCSを活用した現状把握と課題整理」を添付

[illegible]

*事業の全てを自治体職員で実施○、一部の機能を外部に委託△、全てを外部に委託□、を記入下さい。

◆Q-SACCSを活用した現状の把握と課題の洗い出し

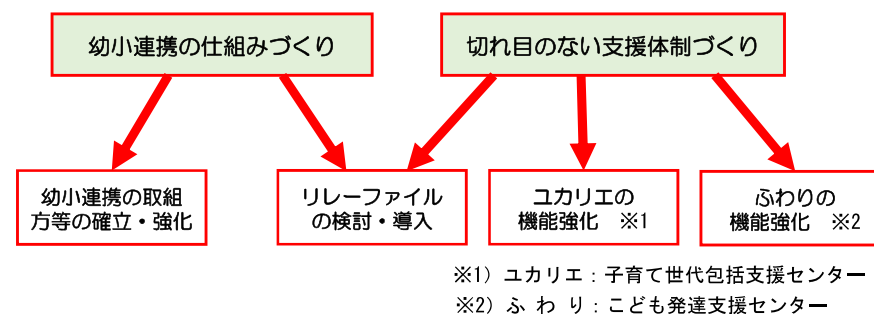
- 就学前の支援等については、赤ちゃん訪問・各種健康診査などから、子育て世代包括支援センターユカリエへつないでいく体制等が整備されていて、充実しているが、一方で、幼少連携における引継ぎ方が統一されていないこと等を含めて、就学期の支援等が特に保健・福祉分野において、少ない状況である。
- 上記の現状を受けて、その結果、施策の検討課題として、以下の2点が必要と判断した。

- ①「幼小連携の仕組みづくり」：幼小連携の強化
- ②「切れ目のない支援体制づくり」：切れ目のない支援策の強化

とし、優先的に取り組むべき課題の明確化を図りました。

4

◆令和6年度以降の具体的な検討課題（まとめ）



5

◆令和6年度以降の取り組み①〔健康推進課①〕

★5歳児健康相談【平成31年度開始】

- 社会性を身につける重要な時期である5歳の時期に相談を行うことで発達障がいへの発見の機会とすること、保護者や関係者が児の特性および適切な対応を知り、就学期をスムーズに迎える準備を始める契機とすることを目的とする。
- 5歳児にアンケートを送付し、記入後、返送してもらい点数化。得点の高い児（または、育児に対する困難さがあり保護者が希望する場合）が来所、相談。
- 当日は、JMAP簡易版等の検査を実施し、言語聴覚士や発達支援指導員が、結果説明と助言を行っている。結果は、保護者同意のもと、通っている保育園、こども園の先生と共有され、日常の保育、教育で支援されている。

6

◆令和6年度以降の取り組み①〔健康推進課②〕

- 5歳児相談の結果、心配なケースについては、保護者の同意を得てケース検討を実施し、通っている保育園、幼稚園の他、入学予定の小学校教諭にも参加いただき、共有できるよう努めている。
- こども家庭庁から令和5年12月に「母子保健医療対策総合支援事業」として、5歳児健康診査が示されたことにより、令和7年度より、集団健診として実施したい。
- なお、現在実施している5歳児健康相談は、事後相談として継続する。

【健康推進課としての今後の検討施策】

- 5歳児健康診査の実施に向けた検討
- 子育て世代包括支援センターユカリエの機能強化

7

◆令和6年度以降の取組み②〔子育て支援課①〕

★幼小連携のための取り組み

①発達支援関係職員研修会

- ・関係職員を集めて、発達の理解を図り、支援のあり方について共通認識を図ることを目的に年1回開催している。
- (R6年度の実績) R6.8.23(金) 18:00~20:00 ・出席者 76名
- ・講師: こども学舎 専任講師 柿原 勝氏
- ・招集範囲: 幼稚園、認定こども園、保育所、通園センター、小学校、養護学校 など

②市教育支援委員会へのアドバイザーとして参加

- ・就学に向けた場を協議するための教育支援委員会へ、発達支援指導員等がアドバイザーとして2名会議に参加。(今年度、2回参加予定)
- ・ふわりと小学校の接続が円滑に進むよう支援内容の情報交換などを行っている。

8

◆令和6年度以降の取組み②〔子育て支援課②〕

③保護者との学校訪問

- ・ふわり通所の年長児の保護者が、小学校の就学の場合について、不安がないように発達支援指導員と保護者が就学を予定の小学校を訪問し、小学校教諭より説明を受ける機会を作っている。

④就学予定児童の引き継ぎ

- ・就学先が決定されたあとは、各幼稚園や認定こども園等に小学校教諭が訪問をし、個別の園児の情報や支援を行っていた場合の内容について、引き継ぎを行っている。

【子育て支援課としての今後の検討施策】

○こども発達支援センターふわりの移転と機能強化

○幼・保・小連携の充実(実務者レベルでの交流活動)【学校教育課との連携】

9

◆令和6年度以降の取組み③〔学校教育課①〕

★幼小接続について

1. 整理した課題

- (1) 小学校教諭と幼稚園教諭の交流が少ない。(単一校での実践はあるが)
- (2) 小学校に設置されているスタートカリキュラムについては、小学校の視点により作成されている。

2. 目指すべき姿

- ・幼児期から小学校にかけての学びが、18歳までの学びの構築へ

3. 接続のポイント

- ・「小学校への順応」から「学びの連続性」へ
～幼小職員による「幼小接続の10の姿」および「スタート・カリキュラム」の共有～
※学びの芽生え→スタートカリキュラム(安心・成長・自立)→自覚的な学び

10

◆令和6年度以降の取組み③〔学校教育課②〕



11

◆令和6年度以降の取組み③〔学校教育課③〕

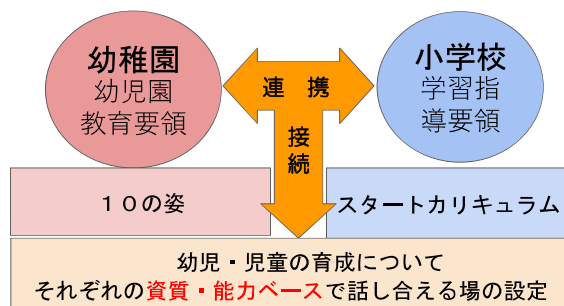
【学校教育課としての今後の検討施策】

○幼・保・小連携の充実

- ・年複数回の実務者レベルでの交流活動

〔子育て支援課との連携〕

- ※子どもの実態把握、授業参観の受け入れ
- ・カリキュラムの共有



12

◆令和6年度以降の取組み④〔社会福祉課①〕

★切れ目のない支援の強化について

- ・就学前は、児童発達支援事業、就学後は、放課後等デイサービス事業を実施。
- ・社会福祉課としては、課題解決のために「リレーファイルの導入」について、検討することとした。

※リレーファイルとは：子どもが成長していく過程での支援方法の記録や相談した内容を綴るもので、保護者やご本人のご希望によって作成します。乳幼児健康診査や母子健康手帳と一緒に使うことで子どもの発育や発達を総合的にとらえることができ、子どもの就園・就学・進学や就労等の移行時には、これにより、これまでの関わりや支援方法を引き継ぐことができ、保健・教育・福祉・医療・就労などに関わる諸機関をつなぎ、切れ目のない支援を受けることで、安心して新しい環境での生活を始めることができるようサポートするものです。

13

◆令和6年度以降の取組み④〔社会福祉課②〕

- ・令和6年度に「自立支援協議会こども支援部会」において、リレーファイルの内容等について、検討しているところであるが、内容等を含めて、活用・運用方法等について、更なる検討が必要と考えている。

【社会福祉課としての今後の検討施策】

- リレーファイルについて、令和8年度から本格導入することを目指して検討します。
※検討の進捗状況によりますが、可能であれば、先行実施も検討します。

14

◆まとめ

- 関係4課において、課題解決のため、検討している施策を進めることで、
- 北海道の目的：「発達の遅れや障がいのある子どもとその家族を支援する体制の整備・充実を図ること」
- 北海道教育委員会の目的：「発達障がいを含む特別な支援を必要とする幼児・児童・生徒に対し、切れ目ない支援が受けられる体制を整備すること」
- 網走市として、上記の目的を実現したいと考えている。

15

ご清聴ありがとうございました。